

「私たちはメシアに出会った」 ヨハネ福音書1章40～42節

細井 茂徳

本日の聖書箇所が登場する「アンデレ」は、聖書の中でそれほど目立つ人物ではありません。主イエスの12弟子の一人ですが、直接その名前が登場するのは数回のみ(ヨハネ1:40～41, 6:8～9, 12:22; マルコ13:3)で、度々登場するわけではありません。しかしいずれの場面でも、人々をイエスさまの元に連れてくるという大切な役割をしています。主と出会ったアンデレは、その喜びを他の誰かに伝える者とされたのでした。彼はまず兄弟シモンをイエスさまのもとに連れて行きます。連れて来られたシモンも主イエスと出会い、ケファ(岩、ペトロ)と改名されました。これは、すっかり新しい人生に生まれ変わることを表したものだでしょう。「**出会った**」メシアとの関係から、その人の人生は素晴らしいものへと変えられていくのです。そのようにしてイエスの弟子たちが生み出されていった、「伝道」なされていったと、ヨハネ福音書は強調しているのです。

41節に「**彼(アンデレ)は、まず自分の兄弟シモンに会って**」と「**まず**」という言葉があります。アンデレはメシアを発見して、それを「まず」自分の家族であるシモンに伝えています。私たちが伝道するというのも、そういうことなのでしょう。「**来なさい。そうすれば分かる**」(1:39)とおっしゃったお方は、自ら私たちのところに来てくださり、私たちを見つけてくださった、出会ってくださったのです。そして主と出会った人は、この出会いの喜びを他の誰かに伝える者とされる。これこそ“伝道”なのでしょう。伝道の根本が、ここに表されているように思います。まず私たち自身がイエス・キリストと真実に出会い、喜びに満ちあふれること。そこから、知らず知らずのうちに福音がまるで雨が水面に重なりあつて水の輪をつくって広がって行く様…、それが伝道なのでしょう。私たちもアンデレのごとく、この教会で、信仰によってキリストを見たこと、恵みを受けたことを身近な者たちに告げてまいりましょう。